

人は目から見たものを信じてしまいやすい生き物です。だから私たちは、全体を見てははっきり信じているわけではなく、その一部だけ見て信じてしまっているのです。映像にだまされてしまうのです。だから心の中で思っている事実と目に入ってくる事実は違うのです。一時の目に入ってくるもので感じてしまうと本当のことを分析できずによく理解せずに、一部のことだけを見て理解して、本当のことを知らないままで思いこんでしまうのです。これが私たちの「第一印象の思いこみ」です。これはとても怖いものです。「人は見かけによらない」と頭ではわかっていますが心の中ではきちりと理解していません。だから目に入ってきたそこだけを理解してしまうのです。それが私たちの人生を大きく変え影響を受けています。このことは私たちクリスチャンにもいえます。神様を信じているとわかっているつもりではありますが、どう理解しているかはこの事を見てみても違うと言うことがわかります。今まで見てきたものに基づいて判断してしまうのです。「こうなるはずがない」という固定概念があるのです。そして私たちの目はすごい能力を持っていて、私たちが見てないつものものを結構見ているのです。そして私たちにとって必要なことを理解し、不要だと感じる部分は意識にとどめないようにしているのです。しかしその必要なことを理解する能力が、もしまちがえていたら大きな影響があるのです。聖書の中に出てくるパリサイ人と言う人たちは、必要なことが不要になり、不要なことが必要なことになってしまったのです。(ヨハネ11：6～17) 弟子たちはこれまでイエス様が病人を癒したりびどう酒を増やしたりといった奇跡を行うのを見てきました。しかし、まだ死人を生き返らせるということは見たことがありませんでした。だから「ラザロを眠りからさませる」とイエス様がいったら「眠っているのは常識だから、起こすのは当たり前、だから大丈夫」と単純に思っていました。しかし「ラザロを死んだ」と聞くと弟子たちにとっては「生き返らない」ということでした。イエス様にとっては眠っていることも死んでいることも一緒のことでしたが、弟子たちはそれまで生きてきた常識でしか判断できず、「寝ている」言われれば「寝ている」だし「死んだ」と言われれば「死んだ」ということだったのです。「そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行って、主といっしょに死のうではないか。」(ヨハ11：16) トマスは、初めはラザロのところに好きでありませんでした。でもイエス様の話を聞いて大丈夫だと信じたら「行こう」となったのです。これは私たちクリスチャンのあるべき姿です。「イエス様のことはわからない、だけど祈っている」こんなことはないでしょうか。私たちの霊は信じています。だけど目や耳は「まだ見てないし聞いてない」となっているの理解できず、口では「わからない」となってしまうのです。私たちは目で見ているものと心で信じているものにはこれだけのギャップがあります。だから心が動いている時はとても強いですが、目と耳が動くこととても危険なのです。「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」(ロマ10：10) 目の前で大きなことが起こると、心だけで信じていると私たちの感覚だけが一人走りしてしまいます。理性的でないと感情的になったり怒ったりし、本来その人が思っている行動でないことをしてしまいます。だからたとえ心の中で信じているつもりでも目の前にある現状が自分にとって大きければ大きいほど、私たちの心の中にある信仰の概念は働きません。だから聖書ではいつも心の中にある概念を口から告白していつもあなたの心と言葉を1つにしなさいと言っているのです。耳をすましてよく聞けば本当はどうしたいかわかります。しかし感情的なときには素直に言えません。本当は、私たち人間は誰一人として神様を信じていない人はいないのです。しかし見たことがあるわけでもないのによくわからないから「まっいいか」としてしまっているのです。見るところの情報から判断しているということは怖いことです。今はあまりにも情報がいっぱいであまり調べればわかってしまい、本当はわかっているのに分かったつもりになってしまうのです。弟子たちも分かった気になっていたのです。口では「生ける神の御子キリスト」と言っていました。心の中ではそこまでわかかっていませんでした。ここにギャップがあるので「病人は癒せるけど、死人は生き返らせられない」とその程度だったのです。しかしトマスは違いました。トマスは現状でわかっていることだけは信じてやろうとすることができたのです。私たちは心の中で理解しなくてははいけません。目や耳で理解するのではなく、神様を感じる必要があるのです。神様はあなたの心の中にいて、あなたにその愛を伝えたいのです。(マタ13：13、14) ユダヤ人たちはこれで滅んでいきました。目の前で神様を見たいと訴えていながら実際に目の前に来たら捨てて殺してしまいました。今までの概念でしか考えることができなかったからです。あなたはどうか信じますか？神様を信じてくるとそれが当たり前になってきます。そうすると方法論で信じるようになってしまいます。「こうするとうまくいく」マニュアル化してしまうのです。(ヨハ14：3～) トマスはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」(5) トマスはわからないことはわからないと言いました。私たちにとっては目に入ってきたことは当たり前になってしまいます。そしてこの当たり前が私たちを苦しめます。「〇〇だから当たり前」・・・これは信じてやっていることとは違います。トマスは当たり前と思わず心で信じて確信して口で告白して行ったのです。疑ったままでは終わらせませんでした。あなたが心の中で感じたイエス様がわかれば義務ではなく自然と行えるになります。信じる強さを得るために①目が求めるものと心が求めるものは違う！目は「見なくては信じない」「体験しなくては考えない」と言っているかもしれませんが心がそれを求めているわけではありません。あなたの心は癒しや、解放を求めています。私たちは目で見たから教会にきているわけではありません。自分の理性よりも先に心の中が信じたのです。信じたのは感じたからです。②イエス様の愛を日々感じる。神様はいつも色々な方法で私たちの前に出てきます。しかし感じたいと思わなくては感じません。あなたのことを触れていますが、私たちが頭で理解しようとするとうまくいきません。奇跡もありますが、奇跡のようなわざで信じるのは弱いのです。心の中で感じなくてははいけません。そうでなければ悪い状況ですべて否定にいらしてしまいます。心で感じましょう③イエス様の証人に！イエス様の愛を感じた人は義務ではなく自然に語れます。(ルカ11：41、42) パリサイ人は形にこだわります。そして儀式をしないと救われないという固定概念が日本の多くの人にも残っています。儀式でやれば一時信じるのは簡単です。でもゆっくりイエス様の愛を感じて欲しいのです。そしてあなたにその証人になってほしいのです。あなたが感じればあなたの人生も強くなり、それを伝えることであなたの周りも幸せになるのです。心で感じてください。そして信じて口で告白すれば赦し、愛し、問題を乗り越えられるようになります。神様はあなたに少しのことで動かされない人になってほしいと願っています。心で神様を感じ素直に口で告白し、見たから信じるものではなく見ずに信じるものになりましょう。(要約者：岩崎祥誉)